

関連項目：教育活動プラン③、⑤

言葉と心を調べ、社会性と自律心を高めるボランティア活動

目的

本校の全校児童数は9名。児童の社会性の育成と自律心の向上を図るため、各種ボランティア活動や対外的諸活動等に多く取り組ませました。自己決定と積極的人間関係づくりの場を多く設けました。

内容

少数で気心を知り尽くした者同士の間では、多様な意見の交流や重層的な人間関係づくりは限界がでがちです。また、言葉少なくても自然に気持ちが通じ合う間柄では、既知の経験の繰り返しが増え、進取の気概を持つことが困難になりがちです。そこで、計画的、意図的に対外活動を多く作り、未知の様々な人とのふれあいの機会をもち、その中で、人とつながる喜びや新たな気づき、学び等を得させようと実践しました。教師は常に児童をよく見て、児童が自ら進んで周りに働きかけたり自主的に判断・行動したりするよう、励ましたり賞賛したりしました。

● 「モーニングサービス」で自分と友だちをみつめよう

毎朝業前の10分間前後、各自で決めたボランティア活動を行いました。(強制でなく、自発的活動とするなら尊いと諭して)。玄関や運動場の掃除、花の水やり、あいさつ運動等、自分でしたい活動を無理なく続ける姿を見守りました。昼も無言清掃を心がけさせると、次第に、心内語の掘り起こしや他人の心を推し量ったり進んで協力し合ったりする姿勢がよく出てきました。



● イヤイヤ言葉(「あ、それは無理…」「どうせ…」等)を減らそう(言語活動)

行動する前から否定的な言葉を出したり、失敗の緩和や保険をかけるような言動をしたりする姿が見られました。本心ではなく口癖であっても、自分の口から出た言葉の意味をよく考えさせ、責任を持つよう指導しました。国語の授業で、伝統的な名文の音読や暗唱を継続して行い、ネガティブさの払拭を図りました。ボランティアの心は、イヤイヤ言葉と正対するものだと思いき始めました。



● 「ウェルカムパフォーマンス(一輪車ミュージカル&おせったい)」で多くの人と直にふれあおう

児童全員が一輪車に乗れます。その技能を生かし、「OMOIYARIのうた」という曲をもとに短編ミュージカルを作り、来校されるお客に歓迎の意味で演じました。(学習発表会、そば打ち体験、バレエ教室、友だち集会、冬のまつり等)森林活動では、ウォークラリーや植林地見学、ツリーハウスづくり、木工制作等を行い、関係者とよく交流できるよう支援しました。また、地域活動として、牧場体験学習やもちつき大会、どんど焼き、SOSのお家訪問、アイガモ農法見学等、毎年声をかけてくださる方々に感謝し、お笑いや合奏等を演じ交流しました。学校での行事にお客や保護者を招待した際は、お茶とおでんやクッキー、焼き芋等をつくっておもてなしをして、自分から進んで声をかけるよう支援しました。



● 「本気の人」には「本気の礼」で応えよう(言語活動)

バレエ教室や音楽会等を演じてくださった方の心情(本気さ)を想像させ、本気には本気で応えようと指導しました。公演の最後に全員が一人ずつ感想とお礼の言葉を言ったり、後日、手紙を書いたりしました。行事の事前指導で、できるだけ他人とは違う視点や言葉を使うよう話しました。それを続けると、参加態度がより真剣になったり、話し方が力強く丁寧になっていったりしました。本気さをしっかり感じ取る感覚が確かなものになっていきました。



成果

- ・ 人と接する機会が増えるごとに自己肯定感が高まり、対話の楽しさがふくらみました。(懇談より)
- ・ 自分から働きかけることの大切さと気持ちよさが体感でき、人を喜ばすことが自分の喜びになることを実感しました。善なる思いを届けることに意欲が出てきました。(感想文やお礼の手紙より)
- ・ ある人との出会いがまた新たな人との出会いにつながることを如実に実感し、楽しむことができました。また何事もすぐに本気で取りかかれるようになってきました。(保護者との懇談や感想文より)